

大豆「里のほほえみ」におけるべと病防除法の確立

要約

「里のほほえみ」のべと病防除の薬剤散布時期を変えて子実のべと病粒率を比較した。その結果「開花 10 日前+開花 15 日後」に散布する体系でべと病粒率が最も低く、葉に病斑が発生する前に防除することにより、べと病被害の低減につながる。

○ 展示のねらい

当管内では 26 年度から「里のほほえみ」が導入されたが、べと病による子実の品質低下が散見され、一部のほ場では高い確率で発生が見られた。そこで、薬剤の散布時期について検討し、べと病防除法を確立する。

- 1) 具体的目標 べと病粒率 3%以下
- 2) 供試面積 70 a (供試区 1, 2 各 30 a、対照区 10 a)
- 3) 試験区概要

	1 回目防除 (時期・使用薬剤)	2 回目防除 (時期・使用薬剤)
供試区 1	開花 10 日前頃 (7 月下旬) シアゾファミド水和剤	開花 15 日後 シアゾファミド水和剤
供試区 2	開花 15 日後 シアゾファミド水和剤	開花 25 日後 シアゾファミド水和剤
対照区	開花 15 日後 アゾキシストロビン水和剤	—

○ 主な成果

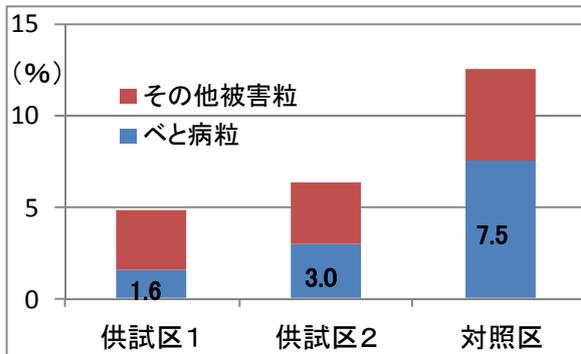


図 1 子実中のべと病粒率および被害粒率

子実中のべと病粒率は図 1 及び図 2 のとおりで、供試区 1 が最も少なかった。開花 10 日前と開花 15 日後の 2 回散布の防除効果が最も高かったことから、葉の病斑発生前に散布することにより効果的にべと病を抑制することが明らかになった。



供試区 1 : べと病粒率 1.6%、供試区 2 : べと病粒率 3.0%、対照区 : べと病粒率 7.0%

図 2 子実 1000 粒中の整粒および被害粒 (四分割右下が被害粒、うち黒枠内がべと病粒)

○ 今後の方向性

予防剤の 2 回防除体系の散布時期については「開花 10 日前頃+開花 15 日後頃」を推進する。

実施機関 : 塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所 : 那須烏山市

問合せ先 : 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315

